

[論文]

児童英語講師養成講座における事例報告 ICT活用能力の育成

カレイラ松崎順子*

Report on a Training Course for Teaching English to Children Aimed at Fostering ICT Literacy

Junko MATSUZAKI CARREIRA

This paper reports on a training course for teaching English to children that aims to foster information and communication technology (ICT) literacy. The goals of this course are threefold: By utilizing ICT, the students can (a) create lesson plans efficiently, (b) create materials efficiently, and (c) investigate English expressions that they need by themselves easily. It seems that most of the students learned the importance of ICT in elementary school English education, and so their ICT literacy was enhanced.

*カレイラまつざき・じゅんこ：敬愛大学国際学部非常勤講師 東京未来大学専任講師 外国語教育

Part-time Lecturer, Faculty of International Studies, Keiai University; Full-time Lecturer, Tokyo Future University; foreign language education.

はじめに

小学校の英語活動は、現在まだ教科化されていないため学習指導要領上の規定がない。そのため、正式な形の教員養成機関というものは存在しない。ゆえに、民間の機関やその他一部の大学で児童英語講師養成講座を開いている。児童英語講師養成に関する先駆的な研究として、野上（1993）が、その当時大学や短大においてどのような児童英語講師養成講座が行われていたかを報告している。一方、各大学の事例研究というのは、2002年以降、英語活動が小学校で本格的に始まって以来少しずつ増加しており（アレン、1994；高橋、2005、2006）、児童英語講師養成に関する研究や事例報告は多くの示唆に富む内容を提供している。

本稿は、著者が担当した千葉県内にあるK大学の「児童英語講師養成講座」の事例報告であるが、とくに本講座では、Information and Communication Technology (ICT) というものに注目し、ICT活用能力を高めることに力を入れて指導を行ってきた。ICTとは情報コミュニケーション技術、情報通信技術のことで、教育場面においては、電子教材を活用した授業の実践やコンピュータによる情報管理などのことである（文部科学省、n.d.）。

本稿では、まず、I.「理論的背景」として、I.-1.「小学校英語教育の現状」、I.-2.「小学校英語教育におけるICTの役割」を順に検討していく。そしてII.「K大学の児童英語講師養成講座における事例」ではI.「理論的背景」の検討を踏まえた上で、著者が担当した「児童英語講師養成講座」において「ICT活用能力」を育成するためにどのような実践を行ってきたかを報告していく。

I. 理論的背景

I.-1. 小学校英語教育の現状

2002年度に、子どもの興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う「総合的な学習の時間」が創設され、各小学校では「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」などそれぞれの学校の実態に応じた学習活動を行っている。その中の「国際理解」を進める具体的な学習活動として「外国語会話」、「国際交流活動」および「調べ学習」があげられており、小学校の英語活動の位置づけが以下のようになされている（文部科学省、2001、2-3ページ）。

「外国語会話」とは、諸外国の様々な言葉を使った意思の疎通を図るための会話である。現在、世界の多くの場面で使用されている言語であることや子どもが学習する際の負担等を考慮して、この手引では、英語を取り上げることとした。小学校においては、子どもの発達段階に応じて、歌、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなどを通して、身近な、そして、簡単な英語を聞いたり話したりする体験的な活動を中心に授業が構成されることから、この手引では、「総合的な学習の時間」で扱う英会話を「英語活動」と呼ぶこととした。

「国際交流活動」は、様々な学校行事や地域の外国人との直接の交流を通して、様々な言葉や文化に触れたりしながら、子どもの国際感覚を磨く活動である。「調べ学習」は、子どもの興味・関心を基にして、外国の生活や文化などについて調べたり発表したりする活動である。

このように、あくまでも総合的な時間の中の国際理解を進めるための学習活動の一つとして行われているのが英語活動である。また、英語活動の

ねらいと活動の在り方として以下の4つがあげられている。

(1) 小学校における「英語活動」のねらい

児童期は、新たな事象に関する興味・関心が強く、言語をはじめとして、異文化に関しても自然に受け入れられる時期にある。このような時期に英語に触れることは、コミュニケーション能力を育てる上でも、国際理解を深める上でも大変重要な体験になる。「英語活動」そのものが異文化に触れる体験となり、さらに、外国の人や文化にかかわろうとするときの手段として、英語を活用しようとする態度を育成することにもつながる。すなわち、言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である（文部科学省、2001、3ページ）。

(2) 子どもの日常生活に身近な英語を扱う

中学校の英語の指導内容は、中学生の発達段階に応じて系統立てて構成されている。中学生期と児童期の発達段階の差や「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえると、中学校の学習内容を先取りするようなことは避けなければならない。小学校では、子どもの日常生活の中の身近な英語を扱うことに重点を置き、楽しさの中に英語に慣れ親しむことができるように工夫することが大切である（文部科学省、2001、3ページ）。

(3) 音声を中心とした活動を行う

コミュニケーションは、主に音声と文字を媒体として行われる。しかし、英語の文字と音声を同時に媒体として意思の伝達を図ろうとすることは、小学校の子どもにとっては、負担が大き過ぎて、英語嫌いを生み出すことにつながる。小学校において子どもが英語に慣れ親しんでいく過程を観察してみると、英語の音声だけで十分にコミュニケーションを図ることができると言える。さらに、音声による言葉だけでなく身振り手振りや表情などによっても、意思を伝達できるものである（文部科学省、2001、4ページ）。

(4) 英語活動で取り入れる学習内容と活動

教師は、学習内容をまず決める必要がある。学習内容の選択に当たっては、初めに子どもの思いや願いをとらえなければならない。初めて英語に触れる子どもたちが持っている好奇心や期待感を教師がとらえることから学習内容の選択が始まる。子どもの期待に沿うような学習活動を展開し、子どもの主体的な活動への参加を促すことが大切である（文部科学省、2001、4ページ）。

以上のような方針のもと、全国で様々な英語活動が行われてきたが、2006年に発表された「小学校英語活動実施状況調査（平成17年度）」によると、英語活動を行っている小学校は全体の約93.6%で、年間平均実施時間数は13.7時間であった（文部科学省、2006a）。また、9割以上の学校で学級担任が英語活動を行っており、assistant language teacher（ALT）が授業に参加した割合は、6割超である（文部科学省、2006a）。活動内容においては、どの学年においても「歌やゲームなど英語に親しむ活動」が最も多く、「簡単な英会話（あいさつ、自己紹介）の練習」が次に多かった（文部科学省、2006a）。

さらに2006年に行われた「教育課程部会 外国語専門部会（第14回）」が、「小学校における英語教育に関する教育条件」の現状と課題を発表した。以下がその一部である（文部科学省、2006b）。

(現状と課題)

- ・既に構造改革特別区域研究開発学校で英語教育に取り組んでいる地方公共団体の条件整備を見ると、地域によって取組に相当の差が見られる。
- ・英語教育意識調査では、教員から、実施上の課題として、「ALTや英語に堪能な民間人など外部人材の確保」、「教材・教具等の開発や準備」、「小学校教員の英語力や指導力の向上」、「教員研修の充実」など、条件整備の充実を求める意見が多く挙げられている。

- ・英語教育意識調査の結果において、保護者、首長、教育長、校長・教頭等に比べ、一般教員において、小学校段階における英語教育の必修化に肯定的な者が少ないこと背景には、これらの条件整備面での課題があるためではないかと考えられる。
- ・小学校での英語教育について共通の教育内容を設定する場合、指導者、教材、ICT（情報通信技術）の活用等が極めて重要である。条件整備に当たっての具体的な課題として、以下に、指導者、教材と教具の問題、ICTの活用について検討することとする。
- ・小学校教員の英語指導力の現状を踏まえると、当面は学級担任（学校の実情によっては、担当教員）とALTや英語が堪能な地域人材等とのチーム・ティーチングを基本とする方向で検討することが適当と考える。今後、教育内容や指導方法の具体的な設計、研修による小学校教員の英語指導力確保の見通し、教材・教具の整備活用の見通し等を考慮しながら専門的に検討していく必要があると考える。

上記で小学校において行われている英語活動を簡単に概観してきたが、現在最も問題になっている点は、英語活動の取り組みにかなりの地域差が見られるということであり、共通の教育内容を設定するために、指導者、教材、ICTの活用が重要であると考えられている。次章では、小学校英語教育におけるICTの役割というものを検討していく。

I-2. 小学校英語教育におけるICTの役割

上記でも述べたように、小学校への英語教育の導入にあたり最も大きな課題となるのは、日本全国同じ条件で教育ができるかということである（岡・金森、2007）。ALTや英語専門教員の確保など、市町村により地域差が見られることが問題となっているが、CDやビデオ教材やICTを活用することにより、同じモデルの提示が可能になり、ICTの活用は小学校英語活動の平準化に大きな役割を果たすものと思われる（岡・金森、2007）。上記の「教育課程部会 外国語専門部会」（文部科学省、2006b）ではICTの利点

を以下のように記している。

- ・各教室において、標準的かつ質の高いネイティブスピーカーの発音に触れさせることができること
- ・魅力的なキャラクターの設定や現実の海外での生活の様子などの画像との組み合わせにより学習意欲や効果を高めることが期待できること
- ・子どもの実態に応じて反復して教えることができるので、聞く力を高める上で必要な徹底した繰り返し学習が可能であること

さらに、今後の方向性を以下のように報告し、児童英語教育におけるICTの重要性を強調している。

児童の音声面での学習を支援するとともに、教員の授業の改善を図る観点から、導入段階では、国において、テキスト、教師用指導資料を作成するとともに、ICTも積極的に活用し、テキストに準拠した音声・画像の教材や教具（例えばCD、CD-ROM、DVD、電子教具など）を開発するなどの支援を行う必要があると考える（文部科学省、2006b）。

また、岡・金森（2007、146-147ページ）は、ICT活用の意味とメリットとして以下の4つをあげている。

- (1) 外国語の音声を聞かせる
- (2) 異なる文化にふれさせる
- (3) 個別評価やコミュニケーションの疑似体験に生かす
- (4) 英語を発信する範囲と対象を広げる

現在行われている小学校英語教育は、音声を中心とした活動を行っているが、音声においては臨界期があるといわれており（Scovel, 1988）、その

ため、児童にはネイティブスピーカーの話す英語をできるだけ多くインプットするべきである。また、あまり英語の得意でない教員が英語を教える場合、このようなメディアは、彼らの英語力の不足を補ってくれるものであり、小学校英語活動の平準化に大きな役割を果たすと思われる。次章では、著者が担当したK大学の児童英語講師養成講座において、児童英語講師を目指す学生の「ICT活用能力」を育成するために、どのような実践を行ってきたかを報告する。

Ⅱ. K大学の児童英語講師養成講座における事例

Ⅱ-1. K大学の「児童英語講師養成講座」の概要

K大学の児童英語講師養成講座は2003年4月に始まった。学生の専攻は国際関係学であり、副専攻として児童英語講師養成講座が設けられている。この講座を終了するためには最低30単位を履修しなければならない。「児童英語教育概論」「児童英語教育教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「児童心理学概論」「英米児童文学Ⅰ・Ⅱ」「English for ChildrenⅠ・Ⅱ」「World EnglishⅠ・Ⅱ」の24単位が必修であり、そのうち著者が担当したのは「児童英語教育概論」と「児童英語教育教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」である。

「児童英語教育概論」の概要

「児童英語教育概論」は通年（4単位）であり受講対象学年は1・2年生である。

（講義目的）

- ・ 小学校への英語導入に備えて、児童英語講師として必要な理論を学ぶ。
- ・ さまざまな言語教授法やバイリンガル教育・脳神経学・普遍文法・認知・情意の観点から見た子どもの言語習得について学ぶ。
- ・ 子供用の英語の絵辞典を使ってディクテーション・シャドーイング・リピーティングなどを行い、児童英語講師に必要な基礎的な英語力や

単語力などを総合的に身に付けていく。

「児童英語教育教授法Ⅰ」の概要

「児童英語教育教授法Ⅰ」は半期（2単位）であり受講対象学年は2・3年生である。

（講義目的）

- ・教室英語をセンテンス単位で覚えていく。
- ・さまざまな英語活動（ストーリーテリング・工作・ゲームなど）を実際に体験し、簡単な模擬授業を行う。
- ・児童英語教育においてメディアやインターネットが果たす役割を模索していく。

「児童英語教育教授法Ⅱ」の概要

「児童英語教育教授法Ⅱ」は半期（2単位）であり受講対象学年は3・4年生である。

（講義目的）

- ・英語のみでゲームの指導ができるようになる。
- ・模擬授業を行う。
- ・フォニックスの基礎を学ぶ。

「児童英語教育教授法Ⅲ」の概要

「児童英語教育教授法Ⅲ」は集中講座（2単位）であり受講対象学年は3・4年生である。

（講義目的）

- ・実習の授業案を作成できる。
- ・教材を必要に応じて作成できる。
- ・授業で必要な英語表現を一人で調べることができる。
- ・小学校で実習を行い、実際に児童に英語を教える体験をする。

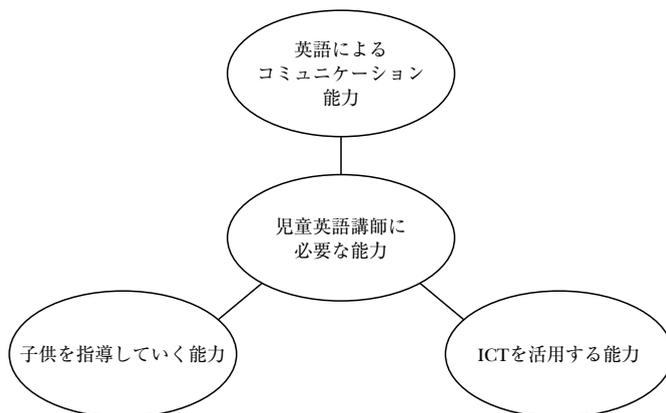
図1は「児童英語講師養成講座」の全体的な概要である。

「児童英語講師養成講座」では、上記で述べた理論的背景をもとにして、図2に示したような3つの能力（英語によるコミュニケーション能力・ICTを活用する能力・子供を指導していく能力）を児童英語講師に必要な能力とみな

図1 K大学「児童英語講師養成講座」の全体的な流れ



図2 児童英語講師に必要な能力



し、これらの3つの能力を伸ばすことを目標として授業を行ってきた。本稿では特に、ICT活用能力の育成のために「児童英語講師養成講座」においてどのような実践を行ったかについて報告していく。

現在、K大学において英語の中学校・高等学校の一種免許を取得するための教職課程が設けられているが、児童英語講師養成講座が始まった2001年度はまだそのような教職課程がなく、学生の英語力は一部の帰国生を除いてかなり低かった（英検3級から準2級程度）。そのため、彼らの英語力を補うためにICTの活用というものが必須であると考え、ICTの活用法ということにかなりの時間を割き、特に以下のような3点を目標にして指導を行った。

1. ICTを活用することにより授業案を効率よく作成できるようになる。
2. ICTを活用することにより教材を必要に応じて効率よく作成できる。
3. ICTを活用することにより授業で必要な英語表現を一人で調べること

ができる。

Ⅱ-2. ICT 活用能力の育成

上記で述べた児童英語講師養成講座のうち、ICT 活用の指導を行ったのは「児童英語教育教授法Ⅰ」と「児童英語教育教授法Ⅲ」である。

Ⅱ-2-1. 「児童英語教育教授法Ⅰ」の事例

インターネット上には児童英語教育に関する多くの無料のホームページがある。公立の小学校などですべての児童に教材を購入させたり、学校で高価な教材を購入することが難しい場合、このようなホームページを利用することにより、児童はあきることなく英語に親しむことができる。「児童英語教育教授法Ⅰ」の講義目的の一つが「児童英語教育においてメディアやインターネットが果たす役割を模索していく」ということであるため、授業ではたびたび情報処理室を使用し、インターネット上の児童英語教育に関するホームページの活用の仕方を講義した。

【授業例1】

日本放送協会（NHK）教育テレビの学校放送の「えいごリアン」のシリーズでは、小学3年生用の「えいごリアン3」、小学4年生用の「えいごリアン4」、小学5・6年生用の「スーパーえいごリアン」の3つのレベルの番組が放映されている。それらのうち「児童英語教育教授法Ⅰ」では「スーパーえいごリアン」を主に授業で扱った。「スーパーえいごリアン」は「20の英語活動」がテーマになっており、主人公サイモンと日本の子どもたちが楽しい活動をする中で、自然な英語を聞かせていく番組である。「スーパーえいごリアン」のホームページ（<http://www.nhk.or.jp/s-eigorian/ja/frame.html>）では、すべての番組が「子どものページ」と「先生のページ」に分かれている。「子どものページ」には各番組の目標表現を使ったゲームが掲載されており、それらの表現が自然に身につくように工夫されている（「スーパーえいごリアン」、n.d.）。「子どものページ」では番組を視聴することができるようになっており、それぞれの番組に関連したゲームが

用意されている。たとえば、「スーパーえいごリアン」の「キャンプの買い物」では、サイモンとカメラマンがヒマラヤに行くために必要なものを買うに行く設定になっており、必要なキャンプ用品をかごに入れるたびに、以下のような英語が何度も流れるようになっている。

What else do we need?

We need a rice cooker.

Do you have any rice cookers?

Yes, which one would you like?

This one is nice.

Ok, I'll take it.

ただ、聞くだけではなく、間違っただけを選んでクリックすれば、それに合った英語が流れ、もう一度繰り返すようになっている。学生は授業の中で、これらのゲームをいろいろ体験した。著者が見る限り、学生はかなり夢中になってこれらのゲームを行っていたと思われる。

一方、「先生のページ」には「こんな授業ができる！ 英語活動編」「こんな授業ができる！ 国際理解編」「こんな授業ができました」「全文訳」が掲載されている。「こんな授業ができる！ 英語活動編」には、番組の内容に関連した簡単なゲームやそのゲームで使用する英語が掲載されている。その中のいくつかのアイデアを参考にして授業を行った。たとえば、「太極拳をマスターしよう」の「こんな授業ができる！ 英語活動編」には何のスポーツか当てるクイズが掲載されており、「児童英語教育教授法Ⅰ」ではこれらを参考にして学生にスポーツ・楽器・食べ物・動物のテーマでそれぞれ一つずつ同じようなクイズを作成させた。また、「こんな授業ができました」には「スーパーえいごリアン」を使用した授業の様子や授業案も掲載されているため、授業案を作成する際に参考になる。その中から学生が好きな番組の一つを選び、ホームページを参考にしながら、授業案を作成し、簡単な模擬授業を行った。

表1 塗り絵の模擬授業を行うために配布したプリントの一部

Today we are going to do some coloring.
Color the lips red.
Let's do some coloring.
Color the picture.
Take out your colored pencils.
Color the train blue.
Draw a plane, and then paint it gray.
Color the map yellow, green, brown and blue.
Paint the triangle below the horizontal line green.
Paint the picture whatever color you like.
Which color do you want to choose for the roof of this house?
You might as well use red here because it stands out.
Trace the line in red.
What color do you want for~?

【授業例2】

子ども用の塗り絵をインターネット上で探し、それを使用して塗り絵の模擬授業を行うように学生に指示した。また、すべて英語で授業を行えるように、事前に表1のようなプリントを配布して、学生はこれらの表現を参考にして、それぞれ模擬授業の準備を行った。順番に先生役を担当し、生徒役の学生は先生役の学生の指示に従いながら塗り絵を行った。

Ⅱ-2-2. 「児童英語教育教授法Ⅲ」での事例

「児童英語教育教授法Ⅲ」ではICTを頻繁に使用して実習の準備を行い、小学校で実習を行った。

【2006年度の授業例】

2006年2月に実施した実習では、「スーパーえいごリアン」のビデオを使用した。以下が2006年度に行った小学校での教育実習の概要である。「児童英語教育教授法Ⅲ」は4日間の集中コースであり、前半(2日間)で教材・教案作成などの準備と模擬授業を行い、後半(2日間)で小学校において教育実習を行った。

1日目：実習の計画と教案作成

「スーパーえいごリアン」の「動物の食べ物」をもとに教案作成

2日目：教材作成と模擬授業

3日目：午前は準備と模擬授業、午後は実習と反省会

4日目：午前は準備と模擬授業、午後は実習と反省会

3・4日目の小学校での実習の概要は次の通りである。

日程：2006年2月13日(月)・20日(月)のクラブの時間(5限)のはじめの20分間

実習生：K大学3年の男子学生1人

対象者：小平市の小学校の「異文化体験クラブ」に所属する小学4年から6年の児童

13日は児童12人、20日は児童11人

活動内容：

2月13日

- ①自己紹介
- ②動物のフラッシュカードを使用し単語を導入
- ③「スーパーえいごリアン」の「動物の食べ物」を視聴
- ④番組の内容を英語で確認

2月20日

- ①1日目の復習
- ②動物のビンゴゲーム
- ③終わりの挨拶

1日目と2日目の授業では、「スーパーえいごリアン」のホームページを参考にして教案を作成し、インターネットやパソコンを利用してフラッシュカード・ビンゴシートなどの教材を作成させた。岡・金森(2007、67ページ)は、小学校で英語を教える教員の資質として「子どもの実態や興味があるものを知っており、教材を選択し、また開発することができること」をあげているが、教材を選択し、必要に応じて教材を作成できるようになることは小学校の英語教員として必要なことである。絵を見せながら英語を聞かせることで、日本語で説明しなくても、音声と概念が頭の中で結びつきやすくなるため(岡・金森、2007)、児童英語教育においてフラッシュ

カードなどの絵が多く必要になる。このようなフラッシュカードは市販されているが、かなり高価である。また、すべての単語がカバーされているわけではないため、必要に応じて作成しなければならない。絵を描くことがあまり得意でない教員にとっては、フラッシュカードを作成するのは大変なことであるが、『ジュリー先生の英会話教室』には無料でダウンロードできるイラストやフラッシュカードが多く掲載されており (<http://kues.educ.kumamoto-u.ac.jp/~fuzoku/EIKAIWA/index.htm>)、このようなものを利用すれば簡単に作成できる。「児童英語教育教授法Ⅲ」ではこのようなホームページ上からいくつかの絵をダウンロードしてカードやビンゴシートなどを学生に作成させた。以下はビンゴシート作成に関する男子学生の感想である。

「今回ビンゴを作成する中で多くのことを考えた。子どもたちはどんな動物が好きなのか、男の子はトラとか強そうな方がいいのか？ 女の子はウサギとかかわいいのがいいかな？ など子どもたちの事を考えながら選んだ。やはり人のために作成するという事は楽しい。作成するのに時間がかかったが、はじめて自分で作成したビンゴを子どもたちに使ってもらって作った甲斐があったと思った」。

【2007年度の授業例】

2007年度は「児童英語教育教授法Ⅱ」において準備や教案作成を行い、「児童英語教育教授法Ⅲ」において実習を行った。児童英語教育教授法Ⅱ・Ⅲは集中講座であり、2007年1月後半から2月にかけて行った。

- 1日目 授業案の作成
- 2日目 授業案の作成
- 3日目 教材作成と模擬授業
- 4日目 実習
- 5日目 2日目の教材作成と模擬授業
- 6日目 実習

4・6日目の小学校での実習の概要は次の通りである。

日程：2007年2月19日(月)クラブの時間（5限）のはじめの20分間・
2月26日(火)昼休みの20分間

実習生：K大学3年の女子学生2人

対象者：小平市の小学校の「異文化体験クラブ」に所属する小学5年
から6年の児童6人

活動内容：

2月19日

- ①自己紹介
- ②歌の指導
- ③カルタ

2月26日

- ①1日目の復習
- ②I like pink fish ゲーム
- ③終わりの挨拶

1日・2日・3日・5日目の準備は情報処理室で行い、インターネットやe-mailなどを頻繁に活用した。学生は主に *Genki English* (<http://www.GenkiEnglish.net/gamemenuj.htm>) のホームページを参考にして、教案を作成した。*Genki English* (Graham, n.d.) には、小学校の英語活動で使えるゲームが日本語・英語の両方の言語で書かれているため、教案を作成するときや英語の表現を調べるときに役に立ったようである。

資料1 (171ページ) は、学生が最初に提出した授業案を著者が添削したものである。学生はフィードバックを参考にしてすぐに書き直し、また送り返してくるという過程を4-5回ほど繰り返した。訂正部分は取り消し線 ~~It is so good~~ を引き、正しい単語やコメントは赤で書き (資料1の四角で囲ってある部分)、すぐにe-mailで返送した。2006年度は授業案を作成する際には、このようなe-mailによるやりとりを行わなかったため、学生はフィードバックをもらった後、はじめから書き直しをしなければならなかった。そのため教案作成までかなり時間がかかったが、2007年度はe-mailやパソコンを使用することにより、時間や労力がかなり削減できたと思われる。

る。資料2 (172 - 173ページ) は完成した授業案である。

さらに、学生の自律性を高めるために、英単語や英語の表現などがわからない場合、すぐにこちらで答えを教えるのではなく、インターネット上のどこでどのように調べればよいかなどのアドバイスを行った。すなわち、どのようにしたら知りたい英単語や英語の表現を調べることができるのかなどの方法を教えるようにした。毎回の授業の最後にその日の授業で感じたことを書いてもらったが、その中に、「以前に授業案を作ったことがあるのに、どのようにしたか忘れてしまっていることがたくさんあった。過去の教材を復習し、使えるものがあれば、付け足していきたい。一度英語の表現の言い回しを自分なりにまとめてみようかと思う」と書いている学生がいた。自主的に過去に学習した教材を復習し、自分なりにまとめてみようと考えており、学生の自律性を少しは高めることができたと思われる。

Ⅱ-3. ICTに関する学生の意見

学生は各授業の最終日に授業に対する感想を書いた。その中から ICT に関する部分を以下に抜粋する。

ICTに関する感想

とても便利だと思った。

- 参考になる資料が、ネットで探せ、また体験談などが載っていたので、本でゲームなどを探すよりは、生の声ののっているネットのほうがリアルで、ゲームを想像しやすかったと思う。
- 教材を探すのにはネットのほうが情報量も多いし、机に向かって教案を一人で作るよりは、ネットをみながら作るほうが良いと思いました。
- 時間が短縮されると思いました。授業のレジュメ作りに関して言えば、自分ですべてをやろうとすると、ひとつのことに沢山の時間がかかり効率が悪いからです。その点、ICTを使うと使える資料などが簡単に探すことができたり、初めて教える遊びにも、最初にビデオなどで見

ているので流れをつかむことができましたと思います。

- 特に、役立ったと思うことは学生が作るレジュメの添削を先生にしてもらうとき楽だと感じました。パソコンを使うので、またはじめから書く必要もないですし、何度訂正しても簡単に手直しがきき、またすぐに先生に見てもらえることです。
- 授業内でビデオを見たりすることは、子供に触れた事がない私たちに“こんな行動をするのか！”とか“こんな反応を示してくれる”などといったものを見ることができたし、教える方としてのやり方などを学ぶことができたと思います。

小学校英語教育の中での ICT の果たす役割や利用に関して

- 百聞は一見に如かずという言葉があるように、説明だけを聞くよりも、ホームページ上の番組などで観賞したりしたほうが、理解度が格段に良いと思いました。
- CDやビデオ、パソコンなどにデータを残して置けば、後々に教材としても使えますし、子供たちの思い出にもなる。卒業式のときに配ってあげれば、喜ぶのではないのでしょうか。
- 子供たちの視点からするとジェスチャーや絵など見たりすることによって耳で聞いてわかるというものだと思うので、はじめから英語で話されてもわからないと思います。そのためネットで絵をダウンロードしたり、音楽を使うことは有効的手段だと思います。今回はビデオを使わなかったのですが、ビデオを見ることも子供英語には必要だと思います。
- 目的が文法を教えたりするものではなく、他国語を習得する第一歩としてなので、それを毛嫌いしないような授業を心がけることが大切だと思います。子供たちがホームページ上の番組を見ているだけでも楽しく、わかりやすい教え方が一番良いと思います。

以上のことより、学生はかなり ICT に関して好意的な意見を持っている

ことがわかる。

一方で、学校教育におけるインターネットの普及による弊害を憂慮している感想も見られた。

- 使い方を誤って児童に悪影響を及ぼしかねないのがインターネットである。近年、インターネットの普及によって、児童に有害なサイトに、児童がアクセスしてしまい、親子共々嫌な思いをしたというケースが、たまにニュースやネット上で問題視されている。これに関しては、保護者や教師だけが気をつけても防ぎ難いものなので、保護者や教師が児童に付き添って、指導しつつ使わなければならないと思う。

Ⅱ-4. 考察

上記で述べたように3つの目標をたてて「児童英語講師養成講座」を行ってきたが、ここではそれらの一つ一つを検証していく。

- (1) ICTを活用することにより授業案を効率よく作成できるようになる。

授業案を作成するために、参考になるホームページとして、「スーパーえいごリアン」と *Genki English* を紹介した。「スーパーえいごリアン」には、「スーパーえいごリアン」の番組を使用して行った授業の授業案が掲載してあるので、それらを参考にして授業案を作成させた。また、*Genki English* には多くのゲームの説明が日本語と英語の両方で書かれているので、ゲームに関しては *Genki English* を参考にした学生が多かった。学生の感想の中に「参考になる資料が、ネットで探せ、また体験談などが載っていたので、本でゲームなどを探すよりは、生の声のっているネットのほうがリアルで、ゲームを想像しやすかった」、「机に向かって教案を一人で作るよりは、ネットをみながら作るほうが良いと思った」、「ICTを使うと使える資料などを簡単に探すことができたり、初めて教える遊びにも、最初にビデオなどで見ているので流れをつかむことができた」とあることから、学生もICTの便利さを実感していたようである。

また、「特に役立ったと思うことは、学生が作るレジュメの添削を先生

にしてもらおうとき楽だと感じました。パソコンを使うので、またはじめから書く必要もないですし、何度訂正しても簡単に手直しがきき、またすぐに先生に見てもらえることです」と学生は感想を述べていたが、同じ教室にいらながらもその場ですぐにe-mailでフィードバックを与えたことを便利だと感じていたようである。このようなe-mailを介した授業案のやり取りは、将来彼らがTeam-Teachingで授業を行う場合に参考になるとと思われる。

以上より、「ICTを活用することにより授業案を効率よく作成できるようになる」という目的はある程度達成できたと思われる。

(2) ICTを活用することにより教材を必要に応じて効率よく作成できる。

いろいろなことが整備されていない小学校英語教育では、一人で様々なことを工夫しながら行わなければならない。子どもに英語を教える上で視覚教材は非常に重要であるが、フラッシュカードなどの教材は高価なものが多いため、すべて買いそろえることは難しい。また、児童の数やゲームによりカードなどを何枚も準備しなければならないときがあるが、インターネットやコンピュータを使用すればそのような教材を簡単に作成することができる。

「児童英語教育教授法Ⅲ」では、「ジュリー先生の英会話教室」のホームページからイラストをダウンロードして実習で使用するフラッシュカードやビンゴを作成させた。エクセルに絵を貼り付けるだけの簡単な方法で何種類ものビンゴシートを作成することができるので、とても便利である。学生はこのようにパソコンを利用して教材を作成するのははじめてで、「やはり人のために作成するということは楽しい。作成するのに時間がかかったが、はじめて自分で作成したビンゴを子どもたちに使ってもらって作った甲斐があったと思った」と感想を述べており、かなり楽しんでビンゴシートを作成していたようである。

以上のことから、「ICTを活用することにより教材を必要に応じて効率

よく作成できるようになる」という目的は果たすことができたと思われる。

(3) ICTを活用することにより必要な英語表現を一人で調べることができる。

Online 辞書や Google や児童英語教育用のホームページなどを活用することにより、ゲームに必要な英語の表現などを見つけることができる。このような能力を養成講座で育ててあげることは、正式なカリキュラムやテキストなどが十分に整備されていない小学校英語教育では、重要なことである。ゆえに、本講座では、教案作成の際に、必要な英語表現はインターネット上からなるべく一人で探しだすことができるように、英単語はスペースアルクの『英辞朗』を、ゲームなどで必要な表現は *Genki English* などのホームページを紹介した。その他 Google を活用して英語の表現を調べていく方法も教えたが、使いこなせる学生はほとんどいなかった。教案作成に関して、学生が以下のような感想を述べている。「教案は楽しく作る事ができた。作り方の参考があったため、だいたいの流れをつかむ事はできた。それを日本語から英語に訳すのが自分には大変だった。日本語では簡単そうな文でもいざ英文にすると、文法がめちゃくちゃであり書き直しが多かった。めったに日常では使わない単語がでてきたりして勉強になった。ホウ砂とか日本語でも意味不明なのに英語でその単語を探せた時は少々感動した」。単語は『英辞朗』などですぐに見つけることができたようであるが、適切な英語の表現を探し出すのはかなり難しかったようである。ゆえに、「ICTを活用することにより授業で必要な英語表現を一人で調べることができる」という目標はあまり達成できなかったと思われる。

おわりに

今後ますます小学校で担任が英語活動に携わっていく可能性が高い。ICTは英語があまり得意でない小学校の教員を大きくサポートしてくれる

ものと思われる。ゆえに、本講座では将来彼らが小学校英語に携わったときに役立つように、どのように小学校英語教育においてICTを活用するかについて時間をかけて指導を行ってきた。学生の感想からもわかるように、彼らは授業の中でよくICTを使いこなし、多くのことを学ぶことができたと思われる。

K大学では2006年度まで「児童英語講師養成講座」で取得した単位が卒業単位に含まれなかったため、学生にかなりの負担がかかることから、最後までこの養成講座を終了する学生が非常に少なかった。しかし、2007年度より小学校教諭一種免許が取得できるようになり、児童英語教育に関する講座もこれらの課程の中に組み込まれていくことになる。数年後には小学校教諭一種免許を持ち、児童英語教育に関する講座を受けた教員がK大学から卒業し、小学校の教員として活躍していくことであろう。児童英語に関する教授法や理論を基礎から学んだ小学校担任が必要とされている昨今、彼らの今後に大きな期待が寄せられる。

(参考文献)

- アレン玉井光江 (1994)。「短期大学における児童英語教師の養成」、『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』、13号、101-118ページ。
- Graham, R. (n.d.). *Genki English* (入手先 〈<http://www.GenkiEnglish.net/gamemenuj.htm>〉、参照2007-03-17)。
- 前田康裕 (n.d.)。『ジュリー先生の英会話教室』(入手先 〈<http://kues.educ.kumamoto-u.ac.jp/~fuzoku/EIKAIWA/index.htm>〉、参照2007-03-17)。
- 文部科学省 (2001)。『小学校英語活動実践の手引き』、開隆堂。
- 文部科学省 (2006a)。「小学校英語活動実施状況調査 (平成17年度)」(入手先 〈http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/03/06031408/001.htm〉、参照2007-03-07)。
- 文部科学省 (2006b)。「教育課程部会 外国語専門部会 (第14回)」議事録・配付資料 (入手先 〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/015/06032708/002/004.htm〉、参照2007-03-17)。
- 文部科学省(n.d.)。「用語解説」(入手先 〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06021401/006.htm〉、参照2007-03-17)。
- 野上三枝子 (1993)。「大学・短大における小学校英語教師の養成——児童(幼児)英語教育授業科」、『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』、12号、63-74ページ。

岡秀夫・金森強 (2007)。『小学校英語教育の進め方』、成美堂。

Scovel, T. (1988). *A time to Speak: A psycholinguistic inquiry into the critical period for human speech*, New York: Newbury House.

「スーパーえいごリアン」(n.d.)。「スーパーえいごリアン小学5・6年総合」(入手先 <<http://www.nhk.or.jp/s-eigorian/ja/frame.html>>、参照 2007-03-17)。

高橋美由紀 (2005)。「小学校英語活動講師研修講座の実践における課題と展望」、*Language Education & Technology*、42号、187-206ページ。

高橋美由紀 (2006)。「小学校英語活動における指導力育成のための教員養成カリキュラム」、『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』、25号、35-55ページ。

資料 1 はじめに提出した授業案を添削したもの

	時間	内容	英訳
挨拶	1min	挨拶	Hi! Good afternoon! How are you?
Game	3min	・1日目の復習 ・新しい形容詞を教える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Last time we 先週行ったことを話す。 Do you remember? OK, let's have a quick review. </div> Ex.) T: What is that? S: It is a cat. T: It is so good! Very good. (色) Ex.) What color is this? This It's red. (pink, yellow, blue, red, green) (形) Ex.) Is it big? Yes, it is big. (small heavy, light, fast, slow)
Game rule	8min	グループ(3人)に分け ルールを説明	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 例を示す A team, B team Make a line. When I say says "GO", the first person in line runs to the table. You pick up a card on each table. that you know The English for You race to the front and say "I like (color or adjective) plus (none). Ex.) I like white dogs. ・ The quickest person to say it gets 10 points! ・ Are you ready? </div>

(注) 取り消し線は訂正部分、四角内は正しい言葉やコメント。S=Student, T=Teacher.

資料 2 授業案の最終版

	時間	内容	英訳	補足英語
挨拶	1min	挨拶	Hi! Good afternoon! T: How are you?	
Learn	3min	<p>・1日目に行った 名詞の復習 (名詞はすべて 単数の単語だけ 使う)</p> <p>《色》</p> <p>《形》</p> <p>(カードを 見せながら I like, a, small or big Red, animal) 誰かに言わせても よい。</p>	<p>Last time we learned about animals. (カードを見せる) Do you remember? OK, let's have a quick review. Ex.1) T: What is this? S: It's a cat. T: Very good! Ex.2) T: Can you guess what it is? Q1: 1. It has long ears. 2. It likes carrots. 3. It can jump. A3 《It is a rabbit.》 Q2 : 1. It has a long tail. 2. It likes bananas. 3. It can climb a tree. A2: 《It is a monkey》 Good job!</p> <p>Today, we will learn about color. Ex.) What color is this? It is red. (pink, yellow, blue, red, green, etc.)</p> <p>I like rabbits. How about Satomi? Do you like rabbits? (生徒に)</p> <p>Do you know what it is? S: It's an ant. Is this big or small? S: small. Good! (ゾウも同じように)</p> <p>OK. I like small white rabbits. How about you? (生徒を指し) I like big blue dolphins. (みんなに言わせる)</p> <p>OK! Let's play a game!</p>	<p>What do you say in Japanese? In English.</p> <p>(答えられない ようなら) Is this big or small? S: big. Yes, it's big.</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">Game rule & play</p>	<p>8min</p>	<p>グループ(3人)を作りルールを説明 一人が説明をし、もう一人が実演をする。 わかりやすいようにカードを取ったら児童に見せる。</p> <p>答えるときも、絵カードを見せながら答える。 (遊ばせる)</p> <p>私たちは生徒の言う英語を聞きポイントを黒板に書く。 (一通り回ったら)もう一度</p> <p>最後に生徒と一緒に点数を数える。</p>	<p>Please make 2 groups.</p> <ul style="list-style-type: none"> • A team, B team • Make a line. (実演してみる) I'll explain the rules of the game. • When I say "ready, set, go," the first person in line runs to the cards. • You (Satomi) pick up a card. • You have to get 3 different types of cards. • You run to the front and touch the card and say "I like (adjective) plus (color) plus (none)." • Ex.) I like white dogs. • The first person can get 10 points. • The second person can get 5 points. Are you ready? • "Ready, set, go!" • Next player. <p>Let's count your points. (T&S)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10 points plus 10 points plus . . . equals 30points. <p>Who's the winner? Team A is the winner. Congratulations! Give them a big hand. That's all for today. Have a good afternoon.</p>	<p>最後に、 I like small white rabbits. までいえるように。</p> <p>Every one, look at Satomi.</p>
---	-------------	--	--	---